

令和元年第8回東大和市議会総務委員会記録

令和元年12月16日（月曜日）

出席委員（8名）

委員長	荒幡伸一君	副委員長	根岸聡彦君
委員	大后治雄君	委員	森田真一君
委員	蜂須賀千雅君	委員	和地仁美君
委員	東口正美君	委員	中野志乃夫君

欠席委員（なし）

委員外議員（1名）

議長 中間建二君

議会事務局職員（5名）

事務局長	鈴木尚君	事務局次長	並木俊則君
議事係長	尾崎潔君	主任	櫻井直子君
主任	高石健太君		

出席説明員（2名）

総務部長	阿部晴彦君	総務部参事	東栄一君
------	-------	-------	------

会議に付した案件

- (1) 座席の変更について
- (2) 所管事務調査
市の防災及び防犯対策のうち総務部の所管に関する事
- (3) 所管事務調査
市の魅力を高めるための施策について

午前 9時29分 開議

○委員長（荒幡伸一君） ただいまから令和元年第8回東大和市議会総務委員会を開会いたします。

○委員長（荒幡伸一君） 初めに、座席の変更についてを議題に供します。

お諮りいたします。

ただいま御着席のとおり委員の座席を変更したいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（荒幡伸一君） 御異議ないものと認め、さよう決します。

○委員長（荒幡伸一君） 次に、所管事務調査、市の防災及び防犯対策のうち総務部の所管に関する事、本件を議題に供します。

本件につきましては、市側から令和元年9月から令和元年11月までの災害対応等について、お手元の資料のとおり報告がありましたので、御確認お願いいたします。

この資料について、質疑等ございましたら御発言をお願いいたします。

○委員（東口正美君） この間の台風被害、大変大きなものがありまして、市の担当におかれましては、大変いろんな意味で御苦労いただいたと思っております。本当に御苦労さまでございます。

その中で、いまだかつてない土砂災害というのがございまして、今後復旧も含めて、現地のことをできれば委員会で見させていただくようなことができないかとは思っているんですけど、今の復旧状況をまず教えていただきまして今後の復旧計画を伺いたいのと、今の災害が起きている現状と、また今後復旧された後の状況等も、できれば現地確認を委員会でできればいいのではないかと思うんですけども、済みません、幾つか言いましたけれども、よろしくをお願いいたします。

○総務部参事（東 栄一君） 幾つか今御質問いただきましたが、現地確認につきましては後ほど検討させていただきたいと思います。

それから、蔵敷の土砂崩れについての状況でございますけれども、議員さんへの情報提供もさせていただきましたが、道路は……少し具体的にお話ししますと、10月12日夜ですね、10時前ぐらいに土砂災害の発生の状況がありまして、現地を確認したところ、市道第682号線、こちらについて、最大20メートルぐらいですか、もうちょっと大きかったかもしれませんけども、道路が塞がれてしまって、通行できない状況になったということで、その翌日以降から建設同友会さんのほうに作業をお願いして、土砂の撤去作業に入ったということでございまして、11月末ぐらいまでに仮復旧が終わったということでございます。

今、設計作業を行っておりますので、今後恐らく当初予算で予算を計上しながら、のり面の補強と擁壁等を設置する本復旧工事が開始すると思われませんが、ただ期間的にはかなりかかるというふうに言われておりまして、設計作業と工事の施工で約8カ月程度かかるというふうに見込まれているというふうに言われたところでございます。

ということで、事前の現場の確認とその後の確認につきましては、ちょっと後ほど調整させていただいて、御連絡させていただきたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○委員長（荒幡伸一君） ほかに質疑はございますか。

○委員（中野志乃夫君） 3ページのところに停電ということが書いてあって、ちょっと私もこれは知らなかったんですけども、実際はどのぐらいの時間停電になったのか、わかったら教えてください。

○総務部参事（東 栄一君） 3ページのところ、これは9月11日の大雨に伴う対応の場所でありますけれども、約2,600世帯ほど停電があったということでございますが、ちょっと時間につきまして、いつごろ復旧したのかまでについては確認してございません。

済みません、以上でございます。

○委員長（荒幡伸一君） ほかに。

○委員（和地仁美君） 一番最初のページの火災の対応についての報告についてなんですけど、これから火災の心配が大きくなる季節で、昨年も大きな火災があって、非常に痛ましい出来事があったところですけども、こちらの3件は誤報ということだったので、結果的にはよかったですねっていうお話になるかもしれませんが、消防団員の出動の人数を見ますと、かなりの人数の方が動いていただいて、一番上のものだと早朝の部分だと思うんですけども、誤報がいけないっていうことを指摘したいのではなくて、この誤報っていうのはどういう形で誤報になってしまったのかとか、誤報の程度にもよると思うので、参考までに、もし詳細というかももう少し詳しい内容がわかれば教えていただければなと思います。

○総務部参事（東 栄一君） 誤報の原因でございますけれども、（1）の9月9日のでいいますと、これは台風があったときだったんですけど、台風による大雨の水のしぶき、これを煙と誤認をして通報されたものでございます。

それから、（2）の9月30日のものでございますけど、こちらについては、これは福祉施設のものなんですけど、入所者が誤って自動火災報知機のボタンを押してしまったことによるものでございます。

それから、（3）の11月24日のものでございますが、こちらについては10階建ての高層住宅だったんですけど、自動火災報知機が、これは原因はわかりません、何らかの原因で誤作動したということで、誤報があったというものでございます。

以上でございます。

○委員長（荒幡伸一君） ほかに質疑はございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（荒幡伸一君） よろしいですか。

先ほど東口正美委員のほうから、現地確認ということで、委員会としてもそういった視点で、大事な視点ではないかというふうに思いますので、今後しっかりと検討していきたいと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

では、以上で本件の報告を終了いたします。

ここで説明員退出のため、暫時休憩いたします。

午前 9時37分 休憩

午前 9時38分 開議

○委員長（荒幡伸一君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

○委員長（荒幡伸一君） 次に、所管事務調査、市の魅力を高めるための施策について、本件を議題に供します。

本件につきましては、11月12日から14日にかけて、青森県弘前市、青森県むつ市及び岩手県北上市の各市のシティプロモーションの取り組みについて視察をいたしました。

本日は、委員の皆様から視察内容について御意見、御感想等ございましたら御発言をいただきたいと思えます。3市行かせていただいたので、1市ずつ御発言をいただければと思いますので、よろしくお願いをいたします。

順次でよろしいですか。じゃ、副委員長のほうから、済みません、お願いします。

○委員（根岸聡彦君） まず、弘前市ですけれども、市民を巻き込んで一緒にPRをしていくというところ、そういう説明があったのがすごく印象に残りました。高校生のユーチューバーを使って魅力を発信しているというところもおもしろい取り組みだなという感じがいたしました。

あとは、人材育成というところで、電通とタイアップをしてなんでしょうか、自治体研修制度があるということで、そういったものを採用しているということで、かなり進んでいるのではないかなというふうに感じました。

大体そんなところですよ。

○委員長（荒幡伸一君） ありがとうございます。では、東口正美委員、お願いいたします。

○委員（東口正美君） じゃ、弘前市について印象に残ったところ。

まずは、弘前市のシティプロモーションは、弘前城の400年、築城っていうんですか、引き家、お城を移すっていう市の一大イベントのスタートとともに始まったということで、市民全体が一つに団結できるというか、心一つにできる事業がスタートだっていうことがやっぱり一番の強みかなということをまず感じました。

あと、シティプロモーションということで、行くまでは何かどこも同じようなイメージがあったんですけども、後ほども言いますが、各市それぞれ違って、弘前につきましては、シティプロモーションはあくまでもシティプロモーションであって、そのプロモーションと各事業というのは立て分けられていて、シティプロモーションがイコールどういう結果を導くっていうのではなくて、プロモーションはプロモーションとして行って、そのプロモーションのもとにそれぞれの事業が行われて、それぞれの成果を問われているというところがすごく印象的でした。

そのプロモーションを手がけている職員の方が、今根岸委員もおっしゃったように電通の、民間に研修に行かせていただいている、その研修が大きく結果を生んでいるというか、人材育成が行われているっていうことを見たときに、やはりこれから行政職員に求められていることは民間から学ぶこともたくさんあると思えますので、当市の人材育成においてもそういうことが検討されてもいいのかなというふうに思いました。

以上です。

○委員長（荒幡伸一君） ありがとうございます。では、森田真一委員、お願いいたします。

○委員（森田真一君） 弘前市で私、大変印象に残ったのは、一つは御担当の若い職員さんが八面六臂の大活躍をされてると、やっぱり職員の力によるところは本当に大きいんだなって思いました。

特に、あちらでも御説明がありましたけど、八戸市だとかむつ市だとか、ほかの自治体に比べると、そちらのほうでは若い市長さんが、いわゆる頭からトップダウンでやるっていうやり方でやってらっしゃるけど、ここは割と下からボトムアップでやってるっていう、担当の職員がうんと頑張ってるっていう、そういうお話を伺いながらプロモーションビデオなんかを見せていただくと、本当に地域に愛情を持ってやってらっしゃるんだなというのを、この弘前市でも感じたところであります。

ここは予算も1億円近くかけてやるような大きな事業っていうこともありまして、東大和市とは単純に比較はできないかとは思いますが、特に外部の電通さんですとか幾つかの企業もかかわってやってらっしゃるということだから、そこのところでは、何というか余り商売気に走らないやり方っていうのも私たちの場合はあるのかなと思いつつ見をさせていただきました。

以上です。

○委員長（荒幡伸一君） ありがとうございます。では、中野志乃夫委員、お願いいたします。

○委員（中野志乃夫君） 弘前市に関しては、もう本当に電通さんに実際派遣して研修させるっていう、その一点に尽きるかなと。大変勉強になりました。

以上です。

○委員長（荒幡伸一君） ありがとうございます。大后治雄委員、お願いいたします。

○委員（大后治雄君） 皆さんがおっしゃってるように、電通に研修っていうのは非常に大きいところかなというふうに思います。

特に、それこそ日本が明治維新のときを思い起こしていただければわかると思うんですけど、やっぱり諸外国をちゃんと見て回った人たちが日本に帰ってきて、その人たちがこういうことだったんだよということを広めていって、文明開化がどんどん進むっていうのと同じように、一人の人がそういうふうに研修に行くと、実は社会っていうのはこういうもんだ、世間っていうのはこういうもんだ、シティプロモーションはこういうもんだっていうところを皆さんに、弘前の中に広めていって、だから弘前でやっていることは、その人が講師となって、どんどんどんどん中心となる人をふやしていくっていうようなことを確実にやってるわけで、人は石垣、人は城じゃないですけども、そうやって人を中心としてやってるっていうところはすごいなというところが一つと、それからあと、これはうらやましいとしか言いようがないんですけども、やっぱり核となるお城とか、それから建築家の前川先生がつくったような、いろんな建築物とかが実は結構あったりとか、それからあとはリンゴが、もう本当に押しも押されぬような立派なものがいっぱいあって、シティプロモーションしなくても行けちゃうんじゃないかっていうぐらいのとてもすばらしい市なんですけども、それがさらに上を目指して、それでシティプロモーションをやって邁進していこうっていう姿っていうのは、これはすごいなというふうに思いました。

以上です。

○委員長（荒幡伸一君） ありがとうございます。では、和地仁美委員、お願いいたします。

○委員（和地仁美君） 皆さんがおっしゃっているところの担当職員の方、東大和市に限らず、シティプロモーションとなると、外部のいわゆる専門家に教を請うたり、あとは民間のPR会社等に指導を受けたりという形の自治体が多い中で、いわゆる自前のものにしようという形で、自前の職員が研修もし、いろいろな企画をするっていうところが一番すばらしいところかなと思いました。

もともと弘前は観光地ですので、職員の中にも中国籍の、いわゆるインバウンドを取り込む方をずっと常駐させているっていうような形ですので、ちょっと東大和市と単純に比較はできないながらも、その取り組み姿勢であったりとか、あと説明の中で、担当の方がKPI、KPIという言葉非常に使っていて、数字でなかなか図れないようなシティプロモーションにおいても数値目標を常に意識してやられていることが、自然とその説明の中にも言葉としてあらわれてきているのかなというふうに思いました。

先ほど森田委員から、予算が比較にならないという話もありましたが、いろいろな映像が、すばらしいもの

があったんですけども、あれも全部職員の方がビデオを担いで撮りに行っているっていうお話、それを今のパソコンであれば自前で編集もできるんですよという、本当に外注してやったものかなと思うぐらいすばらしいできだったり、あと予算をかけない意味では、先ほどの高校生のユーチューバーであったり、高校生がポスターをデザインするだとか、予算をかけず、かつ市民を巻き込める企画力のすばらしさっていうのが、全体の盛り上げにつながっているんじゃないかなというふうに思いました。

以上です。

○委員長（荒幡伸一君） ありがとうございます。

では、続いてむつ市についてお願いしたいと思います。

では、最初に根岸聡彦委員、お願いいたします。

○委員（根岸聡彦君） むつ市について言いますと、昭和60年から人口減少が始まったということで、人口問題がかなり気になっているのではないかなという感じを最初は持っていたんですけども、人口の減少を気にするよりは稼げる産業をとというようなところで取り組みを進めているというところ、地域のあるものを生かしていくんだという、その取り組みがすごく印象に残りました。

そんなところです。

○委員長（荒幡伸一君） ありがとうございます。では、東口正美委員、お願いいたします。

○委員（東口正美君） むつ市は、若い市長がすごいぐいぐい引っ張って、ともかくむつをPRするんだっていうので、日本ジオパークの視察とこのシティプロモーションが視察に来られるのでは多いということだったんですけど、今根岸委員がおっしゃったように、帰ってきて思うのは、担当者の人は何を一生懸命言ってたかっていうと、むつの物を売るんだって、ともかくむつの物を売るんだっていうことがシティプロモーションだってイコールぐらい、いろんな物を売り込んでいる。

ただ、悩ましいなって感じたのは、いいものもあるんだけど、量産するところまで行かないっていうところで、すごいヒット商品がばんと出たら、そこにまた量産していく仕組みもできていこうし、そういうふうになっていくんだらうなって、東大和とは比べ物にならない広大な土地と、また漁業と、あと農業とっていう中で、今そこを目指してもがいているというか一生懸命取り組んでいらっしゃる様子が見えたとのが一番印象的でした。

以上です。

○委員長（荒幡伸一君） ありがとうございます。では、森田真一委員、お願いいたします。

○委員（森田真一君） 私、むつ市は初めて訪れたんですけども、むつの市民の方のお世話を前に結構したことがあるんです。というのは、出稼ぎが多いんで、夏はホタテ、冬は東京に来て建設業と、こういう方を多く目にしたもんですから、産業はどうなってるのかなと思って、行って見て本当に、工場も50年前に、アツギさんでしたっけ、ストッキング会社の工場を誘致したぐらいで、工場を誘致するのも難しいし、原子力産業に大きく依存しているっていうのもよく知られていることだし、本当に産業面でいうと大変なところなんだなっていうことも改めて知りました。

リンゴの話もさっき出ましたけど、むつっていうとリンゴってつい思っちゃうんですけど、いや、ここは寒過ぎてリンゴもないんですよみたいな話も聞くと、そういう中で地元の食べ物をどうやって主力商品に仕立てていこうかっていう想像力に大変共感しました。

たまたま視察の直前に市の御担当の方と合流したお土産屋さんで、コロッケ屋さんがあったものから、

そこのおかみさんと話をしたんですけども、ちょうど前日まで吉祥寺までコロッケを売りに行ってたんだよって、車で寝泊まりしながらコロッケを売りに行ってきた、10万稼げばとんとんなんですみたいなのを言いながら、帰ってきてすぐ仕事をしてるんですなんて、そういう御苦勞もしながらの御商売かなっていうふうに思いました。

それで、そういうような方にこのシティプロモーションの施策はどういうふうに見えるのかなっていうことを聞いたんですけども、そういう勉強をしに来ましたと言ったもんですから、そうしたら、市がそういうことをやっているのは知ってますよっていうふうに言ってたんで、一見するとちょっとアジアに向けてマーケティングをやったりだとか、いろんな取り組みをやってるっていうこともあったんですけども、そういう言ってみれば小商いをやっているような方たちにも話が届いてるっていう意味で、非常に興味深く思ったところでありました。

以上です。

○委員長（荒幡伸一君） ありがとうございます。では、中野志乃夫委員、お願いいたします。

○委員（中野志乃夫君） むつ市に関しては、ちょっとシティプロモーションというよりも、本当に何も無い不毛の土地でよく頑張ってるという。

ちょうどホテルを、いいところを案内してくれて助かったんですけど、本当にこの間、会津電力の社長がまたあそこでも言っていましたけど、150年前の会津戦争で、結局会津藩はむつ市、斗南に幽閉されたというか、つまり何も無い不毛の土地がむつなんです、実際は。だから、そこでシティプロモーションというのは本当に必死だと思いますよ。だから、どうしても売り込まなくちゃいけないっていうのは出てきちゃうんだよね。

弘前とは好対照の場所を案内してもらって、私も改めてちょっと、会津若松といたら会津絡みというか、たまたま会津電力の社長は喜多方ですけど、その人がやっぱりさきの戦争といたら戊辰戦争だし、そっちの話に行く、それで斗南の話も出てきちゃうわけですから、やっぱりいろいろつながりがあるなど実感しました。

○委員長（荒幡伸一君） ありがとうございます。大后治雄委員、お願いいたします。

○委員（大后治雄君） むつ市の場合、先ほど東口さんもおっしゃれましたけども、やっぱり物を売ろうという、シティセールスというよりは、もう物を本当にセールスするというようなところのあれが一生懸命、前面に出ているっていうところがある意味すばらしいなど、わかりやすいなというところが、特化しているところがすごいなというふうには思います。

惜しむらくは、一つ一つの物について、品質はいいとは思いますが、いろいろ見ると。ただ、品質はいいんですけど、残念ながら、それはでも全国いろんなところにあるよねっていうものが結構あって、むつ市だけでそれを売っていかうというのは結構無理があるんじゃないかなというふうに思ったんです。

だからちょっと、ついつい余計なことを言って、下北全体でやったらどうですかなんて余計なことを言っちゃって苦笑いされましたけども、やっぱり皆さんも本当は下北全体で一つの市としてまとまって、合併してやったら一番よかったのになんていうのをにじませながら本当に、でもそれはできなかったんだったというところがあって、そこが彼らの一番のジレンマなのかなと。ただ、そうはいつでも、やっぱりシティプロモーションとして物を売ってかなきゃいけないというところをとにかく必死にやっているんだなというのがありました。

ただその中でも、ちょっとワインをどうこう、ブドウの苗をといて、物すごくスパンの長い話をされてたんですけども、ちょっとうまくいかどうかっていうのは正直わからないですけども、そうやって、何か一

一つ、若い市長さんが引っ張って何かをやっていこうっていう、気概に満ちたことをやってるっていうのは決して市全体に対してマイナスになることはないんじゃないかなというふうにも思いました。

以上です。

○委員長（荒幡伸一君） ありがとうございます。では、和地仁美委員、お願いいたします。

○委員（和地仁美君） シティプロモーションの感想の前に、誰もおっしゃらなかったのが、市役所がすばらしかった。ショッピングセンターだったところの建物が撤退をされて、建物が残って、ワンフロアのばあっと見渡せるフロアで、こういう、そこを誰も、市以外はなかなか使えないぐらい大きいものですので、そのまま市がその選択をしなければ、廃墟みたいな感じで、まちの雰囲気も暗くなっちゃったところを、非常にショッピングセンターですから明るいつくりですし、こじやれたつくりですし、そこを活用しているので、最初にいろいろ不毛の地とかっておっしゃってた感想の方もいましたけど、むつ市のイメージがあので市役所でがらっと変わるぐらい印象的な庁舎でした。

シティプロモーションなんですけれども、皆さんがいろいろおっしゃっていたとおり、同じような意見ですけど、むつ市の市長さんが元外務省でニューヨークにも駐在されたような方ですので、多分海外で日本食ブームが起きて、いろいろ高い値段でも皆さんがおいしい、おいしいと食べているような光景を目にした流れから、日本のものは、むつはいっぱい海のものもあるし、何か農産物もいいものができそうだという形で、多分シティプロモーションも市長がそういったイメージを持ってリードされている中、量産ができないとかいろいろある中で、いただいた資料も、一品一品、海軍カレーとか何とかコロッケとかが去年は幾ら売れましたっていうのが、全部値段が書いてあるんです。何食売れたとか、コロッケが何個売れたとか。

だから、皆さんがおっしゃったとおり、人口をふやすというよりも、まちにあるいい物を売って財政的に豊かになって、そこから市民の人がシビックプライドを向上させるっていうようなイメージを持ってらっしゃるんだろうなと思って聞いていました。

ただ、先ほどいろんな方が言っていたとおり、量が売れないだとかっていうところの差別化で、単価を上げていくのか、量産するところをPFIか何かで、そういった会社なり何なりみたいな形に、何かもう一步踏み出さないとちょっと大きな変換は難しいのかなと思って聞いていましたが、一番印象的だったのは、担当の職員の方が本当に一生懸命説明してくださってるんですけども、何というか自分の言葉じゃなかったんですね。

一生懸命やろうっていう気持ちはすごい伝わってきたんですけども、多分市長が考えていることの翻訳がうまくされず、ちょっと外国語みたいな感じで聞きながら、でも言われたことはやらなくちゃっていうような空気が非常に伝わってきたので、そこら辺がやはりもう少し市内でうまく共通言語で共通認識を持てると、何かいい可能性はいっぱいありながら花開くのがちょっと遅くなっちゃうかなっていう印象を受けてきて、それをうちの市で置きかえたらどうかなっていうような思いでお話を聞いてきました。

以上です。

○委員長（荒幡伸一君） ありがとうございます。

では、最後に北上市、お願いいたします。

○委員（根岸聡彦君） 北上市は、私の感想としては、最初に行った弘前やその次のむつとちょっと状況が違うんだろうなという感覚を持ちました。人口の流出については、特にせっぱ詰まった問題ではないというような説明もあったと思いますし、特に工業誘致がすごいなという感じです。

シティプロモーションに関して言うと、取り組みのきっかけとしては、まちの活性化のためにはまちにかかわる人が地域の魅力に気づき、育て、発信する必要があるという理念があって、打ち上げ花火的なものはやらないんだというようなことを説明されていたと。地域のことを自分ごとにして、若い世代が北上市に愛着を持てるように取り組みを進めているんだというところがすごく印象に残りました。

以上です。

○委員長（荒幡伸一君） ありがとうございます。では、東口正美委員、お願いいたします。

○委員（東口正美君） 当市と同じ牧瀬先生のもとにシビックプライドとかっていうことをおっしゃっていたんですけども、明らかに違ったのは、完全にシビックプライド、シティプロモーションは市民のためにやるんだっていうことをはっきりおっしゃっていたことが一番印象的で、このまちをどうつくっていくのかっていうことに特化されていて、それが外にどう映るかとか、どう外とのかかわりの中で人とかお金とかものとかが入ってくるかっていうことではなくて、いいまちをつくっていくっていうことが、一番私たちの市にとっては大事なことなんだっていう、このコンセプトがすごくすっきりとしていたのと、市職員の方の余裕さを感じる感じの説明会だと、印象だけの話で本当に申しわけないんですけど、そういうイメージの中で、やはり6つと言ったかな、自治会というんでしょうか、何ていうんでしょうか、そういう古くからの各地の団結が強くて、その団結された6つの町内会というんでしょうか、自治会の人たちそれぞれがそれぞれの取り組みをやりながら、またそれを市全体に反映させていくっていうような、本当に市の中をつくり込んでいるっていう印象をすごく受けたのが、この北上市のシティプロモーションから感じたものです。

以上です。

○委員長（荒幡伸一君） ありがとうございます。では、森田真一委員、お願いいたします。

○委員（森田真一君） あじさい型という地域の特色を生かした、それぞれのよさをシティプロモーションに当てはめていくっていうのは、本当に素晴らしいお話を伺えたなと思いました。

特に、北上は私の印象では工場の多いところという、そんなイメージがあったものですから、余り人口問題だとか産業の問題では困ってないのかなっていうふうに思ってもいたんですけど、具体的にお話を聞いてみると、特に高校生をターゲットにして、一旦盛岡に出たような学生さんたちを、どうやってまた北上に帰ってきて活躍してもらおうかっていうことに非常に重点を置いてるっていうお話も伺えたんで、大変よかったなと思いました。

以前、私、建環で長崎市にお邪魔したときにも、やっぱり地場産業を育てながら若い人たちに活力を与えるっていう、そういう仕事をやっていた、別の角度からやったわけではありますけども、相通じるものがあった、特にせっかくこちらでは同じ牧瀬先生に教をいただいているわけですので、そういう北上のやり方はぜひ東大和でもさらに発展させる機会があったらいいなと思いました。

以上です。

○委員長（荒幡伸一君） ありがとうございます。では、中野志乃夫委員、お願いいたします。

○委員（中野志乃夫君） 正直、北上市がすごく豊かといいますか、本当に困ってない。地方で視察に行くと、すごい、あれほど余裕を見せる自治体も珍しいんで、驚きました。

県庁所在地とか弘前みたいなすごい観光都市で有名なところなら別ですけども、岩手県の中で別にナンバーワンではないけども、盛岡に次ぐぐらいののかな、結局、人口に困ってるわけじゃない、財政的に困ってるわけじゃない、結構余裕があつてっていうのを強く印象を受けました。

ちなみに、どうでもいいかもしれないけど、北上市の生んだ詩人の草野心平が東大和二中の校歌の作詞者でもある。縁があることはあるので、そういう話題は全然触れませんでしたけれども、一応ここで触れておきます。

○委員長（荒幡伸一君） ありがとうございます。では、大后治雄委員、お願いいたします。

○委員（大后治雄君） 確かに、北上市はほかの2市と違って相当な余裕があるなというようなところは、やっぱり担当の方が物すごく理屈っぽいですよね。理屈っぽいついていうところにも、何かその余裕があらわれているのかなど。だから、逆にわかりやすくしようとかっていうこともあるんだろうけれども、でもそうじゃなくて、もっともって何か、理屈っぽくとも皆さんがついてくるんだよというようなところを、逆にそれで余裕を感じました。

本当に、先ほど幾つかの、やっぱり地域自治っていうのが本当に確立されていて、トップダウンじゃなくてボトムアップみたいな土壌が昔からあるというようなところが余裕を見せる一番の要因なのかなというところも感じて、あと、シティプロモーションというよりは都市のブランディングに特化して、とにかく北上というブランドをつくり上げていこうっていうところが何か市全体の活性化につながっているような、とても印象を受けまして、そこもまた余裕につながっているのではないかなというような感想を持ちました。

以上です。

○委員長（荒幡伸一君） ありがとうございます。では、和地仁美委員、お願いいたします。

○委員（和地仁美君） 東口委員がおっしゃった、すっきりしているっていうのが私も一番びたつとするような感想でして、シティプロモーションというと、ブランディングをしなきゃいけないとか、住んでいる人には愛着を持ってもらって、外の人には来てもらって、それで税収、財政的にも豊かになりたいっていう、結構てんこ盛りになると焦点がぼけるパターンになるかもしれませんが、前のむつ市のが物を売りたいっていうので、それはそれではっきりしてましたけど、北上市さんのこの資料で、サービスを要求するばかりの人口が増加することはすてきなことかっていう疑問符を持っているぐらい、人口というよりも今いる市民の方の満足度を上げるとめぐりめぐって住みたいまちになるっていうような、フェーズを分けて、もしかして分けてないのかもしれないですけど、その1点に集中してやっている自信を感じるような説明内容でした。

一方で、財政的なところは企業誘致で、また新たに1社大きいところは決まってるんですよと誇らしそうに言われましたけれども、それはそれで別建てでやって、いわゆる働く場所をつくるっていうような、それはそれの、別の柱でやってらっしゃるっていうところで、非常にわかりやすい内容だったかなというふうに思いました。

以上です。

○委員長（荒幡伸一君） ありがとうございます。

最後に、蜂須賀千雅委員、何か所感が、今話を聞いていただいてございましたら御発言をいただければと思います。よろしくお願いいたします。済みません、急で。

○委員（蜂須賀千雅君） いつも、私も委員長をやったときにそうだったんですが、非常に充実した皆さん視察をしていただいて、この結果をぜひ委員長を中心にこれからの東大和に生かしていただく形を、議会報告会的时候も、何回か前のとき、この視察の内容がどう生かされているんだっていうような質問が出たりするので、これを委員長を中心によくまとめていただいて、これからつなげていっていただきたいなという思いが非常に強くなって、皆さんの充実した意見を聞かせていただいて本当によかったですと思っています。

以上です。

○委員長（荒幡伸一君） ありがとうございます。

本日は、委員の皆様から視察内容について順に御意見、御感想等をいただきました。

それでは、本日いただきました御意見等につきましては、所管事務調査の報告書に反映をさせていただきたいというふうに思いますので、よろしく願いをいたします。

では、お諮りいたします。

所管事務調査、市の魅力を高めるための施策についてにつきましては、本日はこの程度にとどめたいと思いますが、これに御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（荒幡伸一君） 御異議ないものと認め、さよう決めます。

○委員長（荒幡伸一君） これをもって、令和元年第8回東大和市議会総務委員会を散会いたします。

午前10時10分 散会

東大和市議会委員会条例第30条第1項の規定により、ここに署名する。

委 員 長 荒 幡 伸 一